

基本的な生活習慣の指導について、一つの試み。

生徒指導部 米谷 数子

(はじめに)

高校生としての基本的な生活習慣の一步として、「挨拶を交わすことができること」をとりあげてみた。「おはようございます」「さようなら」などの日常生活に不可欠の挨拶は、およそ、人が言葉を話しはじめの幼児の段階で家族から教えられ、幼稚園、小学校とそれは受けつがれすっかり身につけている筈なのに、高校生になって、余りに多くの事を学習しなければならない為でしょうか、この簡単な言葉をすっかり忘れてしまうらしい生徒が一部にあるのです。

実際、この言葉は、或る高校生たちから無視され、不思議にも滅多に使われないという事態が起っているのです。なかには、気軽にこれらの挨拶を口に出したいと思ひながら、ためらってしまう生徒もいるようです。しかし問題なのは、そんな形式的な挨拶など不用、若者には古い礼儀は邪魔で、自由な表現法で気楽にやればよい、意志は充分に通じるのだから、とする風潮があることです。高校生ともなれば各個人は独立した人格が形成されつつある時期でもあり、親も教師も、教科の学習に主眼点をおき、こうした日常生活の習慣には、口を出さなくなつて来ているのが実状ではなからうか。しかし自分自身、朝、生徒たちから元気な声で「おはようございます」と声を掛けられると、胸がはずんで、明るい気持で、授業ができ、能率も上るよ様に思うのに、無反応な場合は沈んだ気分になることを思うと、理屈ぬきで、矢張りお互いに生活を明るく楽しくするためにも気軽に挨拶できる習慣はつけて行きたいものと思うのです。ところが、余りに周知の事がらを今更、どのように指導したらよいのか。誇り高い高校生たちなるが故の指導の難かしさを思い、以下の調査を通じてその指導の糸口をまさぐろうとするものです。

(調査のねらい)

朝、はじめて顔を合わせた人同志は「おはようございます」、帰宅時には「さようなら」など、日本語を話すことのできる人なら誰もが口にする習慣のこの挨拶が、本校では時折、交わされなくなつたり省略されたりする場面に遭遇して、はっとすることが、あるのは自分だけでしょうか。教師の方から「おはよう」と声を掛けても、聞こえない風で、或は本当に聞こえないのか、知らん顔をして素通りする生徒が時折いる。それは、例えば授業に出していない学級の新入生の中などに特に多い。また、よく知っている筈の三年生の中にも、空虚な顔をして淡々と素通りして行くのもたまには居る。見れども見えず、聞こえても聞かず、何かで頭が一杯になっている感じの生徒たちには無礼の感覚もなく、まして悪意など、更々ないのである。彼等の頭の中には解けない数学の問題の数式が踊っていたり、忘れかけた英単語の綴りを並べかえていたり、時には世界史の記憶しなければならない年代を呪文のように呟いていたりして、目の前の教師が、友人がしている挨拶に気付かぬまでのことである。或は、挨拶した方がよいことはよく承知しているが、ふと面倒になり、そ知らぬ風をよそおっている生徒もあるようである。概して内向的な生徒に多い。また、形式的な挨拶など、はじめから問題にしていないう生徒、真正面から相手を正視しながら、平気な顔で胸を張って通り過ぎるのが一部に居る。傲慢そのものがまかり通るという感じであるが、本人は悪びれた風でもない。一向に無頓着である。これらの生徒のうち、特に最後にあげた型の生徒たちを見ていると、これは、もしかしたら、一

度も、そのような日本人の挨拶の慣習を教えられることのない環境に生育したのではなかろうか、という疑問さえ湧いてくることがある。これは、機会を見て指導しなければならないのではなかろうか。しかし大部分の生徒は既に周知でもあり実行していることなので全体の前で注意するのは、余計なことのようにもあり、また、そのような生徒に個人的に一对一で注意をその都度したとしたら、注意された生徒は素直に受け入れるであろうか。幼稚園の生徒にするような注意を受けたことで、ひどく自尊心を傷つけられ、かえって反抗的になりかねない要素があるように思う。そこで、円滑に受け入れられそうな効果的な方法とは思索したとき、アンケート形式の調査をし、その質問に答えるなかでどうしたらよいかを自分から考えさせる機会の一つにした方がよいと気付いた。すなわち、調査することによって、生徒の実態を把握することは勿論であるが、加えて、この調査を通して、生徒自らが気付いて反省してくれることを期待したものである。

(調査方法)

以下のアンケートを、ホーム・ルームの時間の一部(約20分)を割いて各学級毎にこれを実施した。 調査実施年月日 昭和53年7月11日

調査対象 全校生徒(定員411 男297 女114)

アンケート回収406(99%)

生活指導部調査

以下の調査項目の()内に適当な数を記入し、また()内に記入されている語句から該当するものの記号に○印をつけなさい。

()学年 ()組 (ア.男 イ.女)

あなたの学校生活の中で以下の事がらについて、どのように考えたり実行して居られるか、正直に答えてください。

(1) 登校・下校の途中、或は校門附近で本校の先生や職員の方に出逢った時、「おはようございます」または、「さようなら」と挨拶しますか。

ア.大ていします。 イ.直接に関係のない教職員の方にはしません。 ウ.殆んどしません。

(2) (1)と同様な場合で、先輩や、友人或は後輩に対して「おはようございます」、「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をしますか。

ア.大ていします。 イ.ごく親しい友人にしかしない。 ウ.殆んどしない。

(3) 校舎内・廊下などで先生や学校訪問の来客に逢ったとき、会釈、或は黙礼をしますか。

ア.致します。 イ.先生にはしますが知らない方にはしません。 ウ.殆んどしません。

(4) 授業のはじめに、一斉に起立して先生と生徒との挨拶の礼を交わす習慣について毎日の一時限のはじめなどは、声を揃えて「おはようございます」と挨拶し、その他の時限でも「おねがいします」などの挨拶を交わすことについて、どう思いますか。

ア.どの時間にも各学級毎に申し合わせた言葉で、明るく挨拶した方がよい。

イ.一時限目のはじめだけは「おはようございます」は言うようにしたい。

ウ.言葉は必要ない。無言の礼でよい。

エ.(その他の御意見)

お答え戴いて有難うございました。いずれホーム・ルームの時間に、この調査の結果を報告し、より明るい高校生活を送るために、どのようにしたら望ましいか。学級毎にお考えいただきたいと思って居ります。

(生徒指導部係)

(調査結果)

()は女子

学級 定員	1 年				2 年				3 年				全学年		
	1 A	1 B	1 C	1 学年	2 A	2 B	2 C	2 学年	3 A	3 B	3 C	3 学年	(定員)	(調査 人数)	
	4 6 (15)	4 6 (14)	4 6 (15)	138 % (44)	4 5 (12)	4 5 (12)	4 6 (12)	135 % (36)	(46) 4 3 (12)	(46) 4 5 (11)	(46) 4 5 (11)	[138] 133 % (34)	411 (114)	406 (114)	
1	ア	30 (15)	34 (14)	30 (12)	94 % (41) 68	38 (12)	31 (10)	38 (12)	107 % (34) 79	37 (11)	36 (11)	36 (11)	108 % (33) 81	310 (108)	76 % (95)
	イ	13 (0)	7 (0)	7 (3)	27 20 (3)	4 (0)	8 (1)	6 (0)	18 13 (1)	5 (1)	7 (0)	5 (0)	17 13 (1)	62 (5)	15 (4)
	ウ	3 (0)	5 (0)	9 (1)	17 12 (1)	3 (0)	6 (1)	1 (0)	10 7 (1)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	7 5 (0)	34 (2)	8 (2)
2	ア	30 (12)	22 (10)	25 (13)	77 56 (35)	24 (12)	21 (10)	24 (11)	69 51 (33)	21 (7)	23 (9)	26 (11)	70 53 (27)	215 (95)	53 (83)
	イ	11 (3)	18 (4)	12 (2)	41 30 (9)	13 (0)	17 (2)	17 (0)	47 35 (2)	20 (4)	20 (2)	14 (0)	54 41 (6)	142 (17)	35 (15)
	ウ	5 (0)	6 (0)	9 (0)	20 14 (0)	8 (0)	7 (0)	4 (1)	19 14 (1)	2 (0)	2 (0)	5 (0)	9 7 (0)	48 (1)	12 (1)
3	ア	25 (9)	26 (11)	26 (12)	77 56 (32)	24 (12)	21 (10)	25 (7)	70 52 (29)	22 (7)	28 (10)	28 (9)	78 59 (26)	225 (87)	55 (76)
	イ	15 (6)	14 (3)	15 (3)	44 32 (12)	13 (0)	17 (2)	16 (4)	46 34 (6)	15 (5)	11 (1)	15 (2)	41 31 (8)	131 (26)	32 (23)
	ウ	6 (0)	6 (0)	5 (0)	17 12 (0)	8 (0)	7 (0)	4 (1)	19 14 (1)	6 (0)	6 (0)	2 (0)	14 11 (0)	50 (1)	12 (1)
4	ア	24 (9)	7 (3)	7 (1)	38 28 (13)	23 (4)	20 (0)	36 (10)	79 59 (14)	9 (1)	13 (3)	8 (1)	30 23 (5)	147 (32)	36 (28)
	イ	19 (6)	21 (9)	18 (9)	58 42 (24)	11 (4)	15 (8)	5 (2)	31 23 (14)	15 (5)	20 (7)	23 (9)	58 44 (21)	147 (59)	36 (52)
	ウ	2 (0)	16 (2)	16 (3)	34 25 (5)	8 (3)	9 (3)	2 (0)	19 14 (6)	19 (6)	12 (1)	13 (1)	44 33 (8)	97 (19)	24 (17)
	エ	1 (0)	2 (0)	5 (2)	8 6 (2)	3 (1)	1 (1)	2 (0)	6 4 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 1 (0)	15 (4)	4 (4)

(調査結果の集計からの考察)

- (1) 朝の「おはようございます」及び、下校時の「きょうなら」の挨拶については、「大ていします」と答えたものは全調査人員406人中310人で、7.6%になるが、学年別の内訳としては、1年生が6.8%に対して、2, 3年生は、それぞれ7.9%, 8.1%になっている。「直接関係のない教職員の方にはしません」としたものは、1年生で27名(2.0%)あり、2, 3年生では18人(1.3%), 17人(1.2%)になっている。また、「殆んどしません」と答えたものは、1年生に17人(1.2%)あるが2年生で10人(7%) 3年生では7人(5%)となるのも、当然のことかもしれない。また、女子については、9.5%が「大ていします」と答え、直接関係ない人にはしない女子は全部で5人、また、殆んどしないのは1, 2年生女子に各1人の計2人だけである。すなわち、女子の殆んどは教職員には挨拶していることになり、男子生徒のなかに、しない生徒が一部あり、特に1年生のなかに馴染みの薄い教職員も多いせいか、挨拶をしない生徒が比較的多い。
- (2) 先輩、後輩の間、及び友人間の挨拶については、半数以上(5.3%)が、大ていは、して居り、親しい友人だけにするもの3.5%と併せると、8.8%になるが、残り1.2%(計4.8人)の生徒が殆んどしません、との答えで、この中に、2年生の女子が1人だけ入っている。また、親しい友人にしかしない142人のうちに、女子は17人あり、女子のなかでは1.5%を占めるに過ぎない。登校、下校の途中で親しい同級生や同じクラブの生徒同志では挨拶はするらしいが、顔だけは知っていても、よく知らない生徒、特に異性に対しては抵抗がある場合もあろうことは、充分考えられるので止むを得ないかも知れない。
- (3) 校舎内・廊下などで、教職員或は来訪者に対して会釈、或は黙礼をしますか、については矢張り半数以上(5.5%)が「致します」と答えてくれた。しかし、先生にはするが、知らない来客にはしないとしたものは、女子の26名(2.3%)を含み、全体で3.2%もある。これは、当世の高校生の風潮なのか、或は当地方の特有の内面的、非社交性の一面が現われているのか、明らかではないが、「殆んどしません」とした50人(1.2%)と共に、特に来客に対しては不作法な生徒が多い実態を知り、冷汗の出る思いである。時には生徒の家族の人が直接教室の方へ、何かの用で生徒を訪ねて行かれるような場合で、廊下で、とまどって居る方たちに、「どなたに御用でしょうか？」或は「御用件は？」と進んで力添えを申し出ているような生徒は非常に少ないことも問題である。その他、いろいろの人が学校に出入りすることはあるのであるが、生徒たちの無関心から、知らぬ間に紛れ込んで金銭を無断で持ち去った人が後に警察でつかまり、盗難に逢っていたことが明らかになったようなことさえあったのである。
- (4) 授業のはじめ(或は終りも)一斉に起立して挨拶する際に、言葉があった方がよいかどうか、については、(ア)のどの時間にも、各学級毎に、申し合わせた言葉で、明るく挨拶をした方がよいとするものと、(イ)の一時限目のはじめだけは、言うようにしたい、が全く同数あり、併せて7.2%の支持があったことは意外であった。何故ならば、現状は、と云うと殆んどどの学級で無言、一部の学級で、教師が「おはようございます」と言うと、約半数の生徒が応える程度であるから。数年前には、ある学級で、一斉に声を揃えて一限目は「おはようございます」その他の時限には「おねがいます」と、さわやかに言ってくれた例があり、その時は、大へん良い感じでした。スポーツのはじめに相互に交わすあの挨拶の感じで、いかにも元気はつらつとした若者たちと一緒に勉強するのだという実感に生

き甲斐を感じたものでした。今頃は少し風潮が違って来たようです。だからと言って、決してやる気がなくなったなどと言うわけではないのですが、言葉は必要ないとするもの97人あり、加えて、その他の意見の中でも、「どちらでもいいではないか」とか、「形式など問題でない」と述べた生徒などが居る一方では(ア)に賛成して具体的な意見を述べたものもいた。4のエの15人の意見の中には、(ア)または(ウ)の何れかに吸収されて分類することも出来るものであり、その数も併せると挨拶は無言でよいとするものが凡そ四分の一はあることになる。従って、いくら教師の方で期待しても一斉に声の揃う筈がないのである。なかには、「挨拶をしてほしい先生には、してもよい」と書いたのもあった。これは矢張り、生徒の方から自主的な申し合わせでも出来ない限り、無理なので教師の方から指図がましいことを口に出してしまっては、かえって、まとまらないことが予測できる。ただ前にも述べたように、ア、ヤ、イ、の支持者が多いことから、ホーム・ルームの時間で討議をしたとしたら、ホーム単位でまとまる場合もあるかも知れない、とは思っているが、あせらず生徒たちの意志として成長して行くのを待つつもりである。

- (5) 以上の項目のすべてにわたって眺めたとき、(1)、(2)、(3)については、何れも(ア)の大ていはします、の穏当な答が過半数を越えていること、及びつぎに(イ)をあげる人数が続き、ウ、殆んどしない、の項目は何れも最小数であることから、幾分、ほっとしているのではあるが、すなわち大部分は常識的な行動の取れる生徒たちであるが、一部には承知していながらこの年代の少年特有の反効的な気分が表われているとも見られる。前にも述べたように、全く無関心で、本当に礼儀の第一歩も知らないのかも知れないときえ思われる生徒も実際に居ることも無視できない。これは概して学業成績とは無関係で、教科の成績が大へん優秀である生徒の中にも、そのような生徒は実際に居る。古来、洋の東西を問わず卓越した才能を持って何かの業績を成したような人、科学者、特に数学者の中に、凡人の想像を絶する奇行のあった人がいることは既に知られていることである。今は故人の岡 潔氏のこととは余りにも有名であるが、西欧の数学者の中にも、或る気の合わぬ招かぬ友人に、自宅を訪問されて、夫人と共に、仕方なく来客を迎えたその数学者は、一通りの挨拶が終ったあと、やおら立ち上って「ずい分永い間お邪魔をしました」と挨拶をしてしまって、夫人や当の訪問者を啞然とさせたという逸話を讀んだことがあるが、概して抽象的な学問の虜になっている人たちには日常的な生活体験の中では何処か、常人と異って、淡々と夢遊の人のような行動をとることがあるようである。(こんな人が車を運転すると危い)。本校の卒業生の中にも、数学のとりこになった、一風変わった秀才の数人が思い当たる。
- (6) 調査項目の答え方について、(ア)「大ていはします」をしたのは、何時どんな時でも必ずするか、と考えたりすると答えにくいのではと、「大ていは」をつけたのであるが、これで、人によって、その尺度、つまり自己の行動を考える尺度に差があったであろうことも想像できる。また、無名なのだから、その必要が無いとは云うものの、実際に自分の到達度は低いのではあるが、こうあるべきだと考えられる項目をえらんで印をつけた者もあろうし、反対に、実際は時折はすることがあっても、酷しく評価して「殆んどしません」をえらんだ生徒も居たかも知れない。そのこともまた男女による差の一因にもなっているのではなかろうかという反省もされる。すなわち、この調査の表面的な集計のみでは真実は評価しにくいのである。その真謬性をも評価する問題は今回は無かったので、大方の動向を掴むことと、はじめにも述べた調査の意図するところのために、許容してほしい点でも

ある。

(おわりに)

基本的な生活習慣の指導の一端が、上記の調査によって、はじめに意図した通り、そのねらいを果すことが出来たかどうかは、まだ明らかではない。まだ、学級毎にホーム・ルームの時間にこの問題をとりあげられていないところもあり、既に話し合った学級もあり、一律ではないので、成果を早々と期待することも難かしい。が、少なくとも調査以前と以後では、朝夕の登校、下校の際に声をかけて挨拶し合う風景は増えて来たと思う。本校では、教師と生徒は、比較的親しく、生徒の中には気軽に教官室へ質問に来る生徒も多いのではあるが、時には、いきなりぬうっと教官室に現れて、横からノートが突き出されてびっくりするようなことがあり、食事中の教師の横に立って、平気で自分の質問をしている風景をしばしば見るが、教師の方でも、「後に、もう一度来るように」と云う人もあれば、食べながら箸を鉛筆に持ち替えていきなり計算が始まっているような人もある。そのような光景を目にする時、常識を越えた人間的な温かみのようなものを感じて、思わず微笑んでしまう自分でもある。所詮、教育の場では、教師も生徒も生きているのである。互いの気持の通じ合う時は、一見、非常識に思える事ながらも円滑に許容されることもあろうし、言葉にならなくても和やかに微笑んでいる視線の中に、相手の気持ちを読みとることも出来るものである。要は教わろう、教えよう、という相互の気持の問題なので、表現方法は、実際は枝葉末端のことなのである。併し、家庭でも学校でも大方のことは黙認されて許容されてしまうとなると、素直で明るい、自己中心的で、無気力で所謂温室育ちが出来てしまうのではなからうか。実社会の障壁にぶつかって、簡単に挫折してしまうようでは情ない。個性の強い一人一人、そして素晴らしい珠玉のような才能を秘めている若者たちに、大きく、伸び伸びと成育してほしいと願う一方で、周囲のことも少しは気の配れる人物になってほしいから、時には、彼等にとって、馬耳東風になるかも知れないが、言わないよりましでは、と自分を励まししながら、日常生活の基本的習慣について話し合う労をいとわぬつもりである。今度の調査はその一つの緒である。ここから出発して、まだまだある多くの問題点を共に考えて行きたいと思っている。一度に多くの注意事項や問題点を提起しても容易にすべてが徹底しないことは明らかであるので、あせらず序々に是正して行く計画である。とは言いながら、毎日の学校生活のなかでは、緊急放送によって注意をうながさずに居れないような問題も起こしてくれる。定められた場所まで自転車を運ぶ時間を惜しんで出入口の前に放置して教室へ滑り込む生徒が、そのまま忘れてしまって交通妨害をしていたり、交通ルールの無視で補導されるバイク通学者が居たりで目まぐるしい現代の世相に合わせて忙しい日々の中に、出来る限り生徒と共に息の通い合う教育をと念じて努力して居るつもりですが、微力の故に様々な困難にぶつかって、暗中摸索をして居る実状の一端を述べさせていただきました。諸先生方の御批判、御指導を仰ぎたいと思います。